

令和8年度 文京区立窪町小学校 授業改善推進プラン 第5学年

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
国語科	○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」において、事実と感想、意見とを区別し、自分の考えが伝わるように論理的に話したり書いたりすること。 ○「読むこと」において、描写や事例から筆者の考えや登場人物の心情などを細かく読み取り、全体像を具体的に想像したり、それに対する自分の考えをまとめたりすること。また、読み取ったことや自分が考えたことを、言葉で伝え合い、考えを広げたり深めたりしていくこと。 ○正しい敬語の使い方の理解や漢字を習得すること。	○事実と感想、意見を区別することができるように、接続語や文末表現に注意しながら、事実、意見、感想などの関係を捉えるように指導したり、話の種類や特徴に応じて、構成を考えるように例示して学びの蓄積を視覚化したりする。よさを共有し、それに従って書いた文章を互いに読み合ったり、聞き合ったりすることで、正しい表現について確かめ合ったり、よりよい表現にしたりと推敲していく力を付けていく。 ○登場人物の行動や会話、情景等に注目させ、想像力を豊かに登場人物の気持ちを考えることができるようにしていく。それらを場面ごとに比較したり、自分や他者と比較したりすることで自分の考えをもてるようにする。また、自分事として捉えられるように事例を読み取り、要旨をしっかりと捉えさせ、自分の考えを整理する時間を十分に確保し、交流する機会を増やす。 ○学校生活を通して、敬語を正しく活用できるよう指導する。どの教科においても既習の漢字は使用するように、指導することで、確実な定着につなげる。
社会科	○主体的・対話的な学びに向かうため、児童の知的好奇心を刺激する導入資料を提示し、児童の気付きや疑問を丁寧に見取りながら、共感的な学習問題へと構造化していくこと。 ○収集した情報を整理・分析し、個々の思考や理解が深まるような効果的な表現方法(ワークシートの工夫や ICT 活用など)を選択・指導すること。 ○ただ書き写すだけの調べ学習に終始せず、表や図、マインドマップなど、児童自身が内容を整理しやすくなるまとめ方のバリエーションを指導すること。	○異なる立場や状況を示す2つの資料を並べて提示し、「なぜこんなに違うのだろうか?」という問いを自然に引き出す。 ○児童の「事実への気付き(青)」と「疑問や問い(赤)」を色分けして板書に位置づけ、クラス全体で共有する。 ○集めた付箋やカード情報に対し、「大切だと思う度合い」や「共通するグループ」ごとに色を変えるルールを決め、情報の優先順位を視覚化させる。
算数科	○数学的な見方・考え方を働かせて数量の関係を理解し、問題場面を具体的に捉えて立式すること。 ○1000でわる計算などにおいて、小数点の位置を正しく表すこと。 ○小数のわり算において、商を概数で求めたり、余りを求めたりすること。	○問題文を読んだ後に、図や表、テープ図などを用いて場面を可視化する活動を取り入れる。 また、「なぜその式になるのか」を説明したり、友達と考えを交流したりする活動を充実させる。 ○「上から〇桁め」「〇の位まで」を比較する活動を取り入れ、それぞれの違いを明確にする。 また、計算の手順だけでなく、余りがどの数量を表しているのかを、図や数直線を用いて具体的に理解させる。 ○小数点の意味や計算過程の意味などを繰り返し指導する。計算練習に取り組むなど、繰り返し学習する機会を増やす。
理科	○調べたいことに対して、実験の計画を立てたり、実験の途中経過から実験内容が正しいかどうか調整したり、検証したりすること。 ○結果と考察の区別をして表現すること。 ○実験用具の正しい使い方について理解すること。	○実験の計画を立てる際に、既習の内容を振り返らせたり、実験の途中で振り返る時間を意図的に設定したりする。 ○結果概念と考察概念の違いを教え、区別できるようにしていく。 ○実験前に実験用具の使い方の動画を視聴させたり、掲示物を提示したりする。また、繰り返し使用し理解を深められるように環境を整える。
音楽科	○歌唱では、表現するために必要な技術が十分でないという思いからか、やや消極的になってしまう場面が見られること。	○歌唱の表現に必要な基礎的な能力を育てるために、短い楽曲を用いてのびのびとした発声で歌える技能を育てる。その際、ゲームや挑戦的な要素を盛り込み、ドリル的な活動にならないように留意する。 ○ICT 機器や教材の活用の仕方の工夫を行う。例えば、練習用動画を活用したり、楽譜を活用したりする学習を同時進行で行うなど、個に応じて課題を変えるなど、個に応じた指導の充実を図る。 ○互いの演奏をよく聴き、相手の演奏のよさを言葉にして伝え合うことを習慣化させることで、皆で一つの曲をつくり上げる素晴らしさや達成感を味わえるようにする。
図画工作科	○主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組む児童が多い一方で、自分のイメージを、造形的な特徴をもとに表すことが難しく、時間がかかってしまう場面もみられること。	○様々な表現方法を経験させ、表現の幅を広げ、どの児童もつくり出す喜びを味わうことができるよう指導する。導入では、ICTで画像や動画、または教師が実際につくっている様子を見せ、表現方法のイメージをもちやすいよう指導する。支援が必要な児童には、早めに声をかけ支援を行い、個別に指導を行う。

家庭科	○作業時間のバラつきを吸収できる活動を工夫すること。 ○一人一人が基礎的・基本的な知識及び技能を定着させること。	○十分に技能が身に付いている児童には発展的な課題を用意し、苦手意識が強い児童に対しては、少しずつ区切りながら学習内容や活動内容を説明する。また、休み時間を活用して個別に指導を行う。 ○学習内容に応じてグループ指導・個別指導を取り入れることで、児童同士で学び合いながら基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせる。また、分かりやすい資料を提示することで、児童の関心、意欲を惹き出す。
体育科	○体育が好きでも体の使い方や基本的な動きを十分に理解できず、苦手意識をもったり、運動に対して消極的になったりする様子も見られること。 ○児童一人一人の経験や技能の差に対応できるよう、学習内容や指導方法、学習形態を工夫すること。 ○児童が自分の課題に応じて取り組めるよう、多様な練習の場や機会を充実させること。 ○友達と協働的に学ぼうとする意識が高まり、話し合いや教え合いの場面も増えている。さらに学びを深められるよう、話し合いの視点や効果的な伝え方について指導すること。	○ICT を積極的に活用し、運動のポイントが分かる動画や写真などの資料を提示したり、自分の動きを撮影して確認したりする機会を設けることで、体の使い方や基本的な動きへの理解を深め、苦手意識の軽減につなげる。 ○学習計画の早い段階で多様な練習方法を紹介し、それぞれの課題に応じた練習を選択できるようにする。また、振り返りの時間に効果的だった練習方法を共有し、自分に合った学び方を理解できるようにする。 ○運動の特性や児童の実態を踏まえて練習の場を工夫し、一人一人が自分の課題に応じて取り組める環境を整えることで、主体的に運動に取り組めるようにする。 ○課題確認や振り返りの時間に、話し合う視点を明確に示したり、掲示物などを活用して視覚的に分かりやすく伝えたりする。また、互いの気付きや運動のコツを共有する時間を設けることで、協働的な学びをより活発にしていく。
外国語科	○「聞くこと」において、既習の英単語や英語表現から場面や状況などを想像しながら、文章の意味をおおむね理解すること。 ○「話すこと」において、既習の英単語や英語表現を用いながら簡単な英語表現で自分の気持ちや考えなどを相手に伝えること。 ○「書くこと」において、アルファベットの大文字と小文字の音と形を正しく認識し、四線を意識しながら正確に書くこと。	○教師は扱う英語表現を精査し、既習の英単語や英語表現は都度確認する。また、児童に英語を聞かせるときには動画や写真等を見せたり、デモンストレーションを見せたりすることで児童には場面や状況などを想像しやすくし、文章の意味をおおむね理解できるようにする。 ○歌やチャンツをたくさん扱い、児童に基本的な英語表現を楽しく学習させることで、児童が十分に慣れ親しんだ英語表現を場面や状況に応じて使ってみたいと思えるような課題や活動を意図的に授業の中に取り入れる。 ○教科書・ワーク・ゲームなどを活用して、児童が楽しくアルファベットの大文字と小文字の学習ができるようにする。また教師が板書するときには四線を書き、児童が常に四線を意識できるようにする。
道徳	○児童一人一人が、道徳的価値について自分事として考えられるような授業展開を工夫すること。 ○道徳的価値について理解し、実生活での行動につなげようとする意欲を育てること。	○児童の実態に応じて教科書以外の教材も活用するとともに、少人数での話し合い活動を取り入れたたり、振り返りの発問を工夫したりすることで、一人一人が道徳的価値について自分事として考えられるような授業展開を工夫する。 ○道徳的価値に関わる自分の経験を振り返るとともに、意見交流を通して様々な考えに触れ、価値について多面的・多角的に考えを深められるようにする。
総合的な学習	○「課題設定」において、探究課題を自分事として捉え、目的意識をもって活動する児童が多く見られること。 ○「情報収集」において、本やインターネット、インタビューなどを活用し、必要な情報を収集することができること。 ○「まとめ・表現」において、学習のまとめ方や発表方法が固定化していること。 ○学び方を理解し、ゴールイメージをもち、児童が自ら見通しをもって活動すること。	○児童が見通しをもって学習を進められるよう、探究的な学びとなる単元指導計画を綿密に作成し、繰り返し学ぶよさに気付くとともに、集団で課題を解決する経験を積み重ねられるようにする。 ○情報収集の方法や活用する場面について、児童の実態に応じて適切に提示していく。 ○教材研究を深めるとともに、ゲストティーチャーとの連携や教師による多様な表現方法の提示を通して、まとめ方や発表方法のバリエーションを広げる。 ○学習計画表を作成・掲示し、学習の流れをいつでも確認できるようにする。